

事務事業評価シート（評価実施年度：平成27年度）

上位の施策名称	施策Ⅲ-1-2 発達段階に応じた教育の振興
---------	-----------------------

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長

学校企画課長 高橋 泰幸

電話番号

0852-22-5408

事務事業の名称	高等学校修学奨励費（定時制・通信制）	
目的	(1) 対象	県立高等学校定時制課程及び通信制課程に在籍する勤労青少年
	(2) 意図	経済的負担を軽減させ、修学の促進を図る
事業概要	有職生徒の経済的負担を軽減させるため、1月当たり14,000円の修学資金を貸与、また、教科書及び学習書を無償で給与	

2. 成果参考指標

(1) 成果参考指標	指標名	適格者に対する貸与、給与率	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			目標値		100.00	100.00	100.00	100.00	
式・定義	貸与者/貸与申請した適格者		実績値	100.00	100.00	100.00	100.00		%
			達成率		100.00	100.00	100.00		%
式・定義	指標名		年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			目標値		0.00	0.00			
式・定義			実績値	0.00	0.00	0.00			%
			達成率		0.00	0.00			%

3. 事業費

	26年度実績	27年度計画
事業費(b) (千円)	3,130	5,016
うち一般財源(千円)	3,130	5,016

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	①順調に進んでおり課題がないため検討していない
---------------------	-------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

修学奨励資金については、平成26年度においては申請を行った2名の者に貸与した。なお、平成25年度においては申請のあった3名の者に貸与している。また、教科書・学習書については、平成26年度においては希望する約280名の者に約3,000冊給与した。なお、平成25年度においては希望する約320名の者に約3,600冊給与している。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

有職生徒の経済的負担を軽減することにより、青少年の修学に成果を上げている

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

①困っている「状況」

特になし

②困っている状況が発生している「原因」

特になし

③原因を解消するための「課題」

特になし

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

修学奨励資金については、各校で生徒にもれなく制度周知し、適格者に対し確実に貸与を行っており、これを継続する。また、教科書・学習書については、希望する者に対し給与を行っており、これを継続する。

◎課(室)内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

◎上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）